

Elementary Archaeological Report
てらこや理文

令和5年
春号

発掘調査集トピックス 山口盆地の夏は暑く、冬は寒い

令和4年度は、発掘調査をする工事が3件計画されました。調査を行ったのは、いずれも山口市に所在する吉田キャンパス（吉田遺跡）です。

特別支援学校校舎改修工事（立会調査）

工事自体は令和3年度から行われており、令和4年2月以降、配管改修工事に伴い立会調査を実施していました。工事は既設管を付け替えるものであったため、掘削時に土層断面を確認するにとどめていましたが、特別支援学校教室棟Aの南側管路約40mが新たに掘削されることになったことから、7月20日（水）から8月5日（金）にかけて発掘調査を行いました。

猛暑日が続く中での厳しい調査となりましたが、後期高齢者に至りますます元気な作業員さん3名と、自己鍛錬のため調査に参加した人文学部生4名、そして館員2名で調査を進め、弥生時代の河川跡を検出し（写真1）、無事調査を終了しました。

附属農場フィルムハウス設置に伴う造成工事

（予備発掘調査）

9月30日（金）から10月18日（火）にかけて、農学部附属農場実験水田北側にて予備発掘調査を実施しました。調査地点は、姫山から南に派生する丘陵端部にあたり、江戸時代中期に作成された『地下上申絵図 吉田村清図』（山口県文書館所蔵）では、家屋5軒からなる集落が描かれている地域に相当します。工事計画地は、本学統合移転前の昭和38年（1963）に撮影された航空写真を見ると、1軒の家屋が確認されることから、削平を受けていることが予想されました。

調査の結果、調査区の南西側は家屋建設により大きく破壊されていましたが、地山が残っていた北側、東側に遺構を確認することができました（写真2）。

学生会館増築工事（予備発掘調査）

吉田キャンパス正門南西側にある学生会館（学生マンション）の増築工事が計画されたことから、2月8日（水）から2月28日（火）にかけて、予備発掘調査を行いました。

令和元年度に行った既設の学生会館新営に伴う予備発掘調査では、弥生時代のものとみられる河川跡を検出していることから、その延長部の確認を試みましたが、調査区内に河川跡を確認することはできませんでした。

当調査で注目すべき点は、現地表（標高約18m）下の約1.5mに本学が移転する前の水田耕作土を検出したことで、キャンパス内でも最も厚く盛土が施された場所であることが判明しました。そして、耕作土の直下には、層厚約30cmの黒褐色土が堆積しており、層の上位にわずかながら縄文土器が含まれていることを確認しました。これらの事実から、縄文時代の当地周辺は止水環境の湿地であり、人類の活動は活発でなかったこと、そして上部の堆積層は近代の耕地化により大きく削平を受けていることが明らかとなりました。

（横山成己）



写真1（吉田）特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査
河川跡掘削状況（西から）
7月22日撮影



写真2（吉田）附属農場フィルムハウス設置に伴う造成工事
に伴う予備発掘調査
遺構検出状況（北から）
10月12日撮影



写真3（吉田）学生会館増築工事に伴う予備発掘調査
重機掘削状況（北から）
2月8日撮影

展示トピックス ゆっくり回復していこう

長引く新型コロナウィルスの影響のため、令和4年度も学外からの見学希望者には見学票への記入(年度途中で解除)をお願いし、手指消毒とマスク着用へご協力いただき、同時入室者数を最大9名に制限させていただきましたことになりました。

また、積極的な学外広報を控えたことや、本学でのイベントが各種制限の中開催されていたこともあり、今年度も入館者数は伸び悩み、年度間の総入館者数は、残念ながら新型コロナウィルス流行以前の半数以下にとどまりました。

来年度より5類感染症へと引き下げられるようですが、この3年間が文化施設に与えた影響は想像以上に大きく、以前の状況に戻るにはそれなりの時間を要すると思われます。当館も力を蓄える期間と考え、ゆっくり回復していきたいと思います。

第44回企画展『美濃ヶ浜遺跡－古代の製塩と祭祀－』

令和4年8月6日(土)から10月14日(金)の会期で、第44回となる企画展を開催しました。展示の主題は山口市秋穂に所在する「美濃ヶ浜(みのがはま)遺跡」。この遺跡は、山口県で初めて発見された製塩遺跡です。大正14年(1925)に官立山口高等学校生により発見されましたが、県内初の縄文時代遺跡として一躍脚光を浴びたものの、製塩遺跡としては認識されませんでした。

その後、遺跡は長期間放置され荒廃していましたが、昭和35年(1960)に山口大学古代遺跡調査室を中心となり「山口市美濃ヶ浜遺跡学術調査団」が結成され、本格的な学術調査が行われました。この調査により、美濃ヶ浜遺跡が古墳時代から飛鳥時代にかけての製塩遺跡であることが確認されたのですが、複合組織での調査が災いしたのか、出土した諸資料は各所に分散して保管されることになり、残念なことに正式な報告がなされぬまま各組織の収蔵庫に眠り続けることになりました。

また、4年後の昭和39年(1964)にも本学文化会公認サークル考古学部による発掘調査が実施されていますが、こちらも調査成果が公表されぬまま現在に至っています。

展示を開催するにあたり、当館に所蔵される昭和35・39年次調査出土資料の確認から始め、本学文化会考古学部や山口市教育委員会、山口県立山口博物館の協力を得て各所蔵資料を確認し、製塩遺跡としての美濃ヶ浜遺跡回顧展を開催することになりました。

展示の最大の成果は、幸運なことに文化会考古学部に調査フィルムが残されていることが判明し、竪穴式住居跡を撮影したフィルムに写り込んでいる土器が山口市教育委員会に保管されていることを確認したことです(写真6)。また、当館と山口市教育委員会、山口県立山口博物館にそれぞれ所蔵している子持勾玉を、初めて同時公開することができました(写真7)。

そのほか文献調査により、美濃ヶ浜遺跡にて採取された資料が、國學院大學博物館や広島県立歴史博物館(広島県立府中高等学校旧蔵品)に収蔵されていることも確認することができました。

会期中、181名の方々に観覧いただきました。アンケート調査には、「製塩の様子を再現した模型が印象に残った」「今回のような行きやすい場所の遺跡を展示して欲しい」などの声が寄せられました。

今回の展示は、美濃ヶ浜遺跡の出土資料を今後どのように学術公開すべきか検討する良い契機となりました。ご協力いただいた関係各位にお礼申し上げるとともに、今後の連携を模索していきたいと思います。

令和4年度山口県大学ML連携特別展

『山口大学追想録～遺跡写真に見る昔と今～』

令和4年10月31日(月)から令和5年1月31日(火)の会期で、令和4年度山口県大学ML(ミュージアム・ライブラリー)連携特別展への参加展示を開催しました。

今年度の展示共通テーマは「追想」です。当館はこの夏、長年の課題



写真4 第44回企画展は
猛暑の中オープンを迎えました
8月6日撮影



写真5 美濃ヶ浜式土器と製塩風景模型
8月6日撮影



写真6 文化会考古学部所蔵の遺跡調査フィルムと
山口市教育委員会に寄贈された出土資料
8月6日撮影



写真7 一堂に会した美濃ヶ浜遺跡の子持勾玉
8月6日撮影

であった、吉田キャンパス統合移転時に小野忠熙氏と山口大学吉田遺跡調査団が実施した遺跡調査記録フィルムのデジタルアーカイブを行いました。昭和41年(1966)から46年(1971)にかけて撮影されたものであるため、カラーネガフィルムの多くはすでに劣化が進行していましたが、モノクロネガフィルムは比較的良好に画像が残っていました。連携展のテーマが「追想」ということもあり、一部を展示にて公開することにしました。

展示では、撮影時のカメラの位置やレンズの方向を特定し、現在の吉田キャンパスの景観と比較を試みました(写真8)。また、あまたのフィルムで撮影されたとみられる学生たちの休憩模様の画像や、ビアガーデンでの遊興画像(写真9)なども、当時の学生生活の貴重な情報として公開しました。

会期を通じて、170名の方々に観覧いただきました。コンセプトを「写真に見る」としたことから、通常より遺物の公開を控えましたが、アンケート調査では「小さい展示室ながらも、資料や解説が充実しており、楽しめました」「調査をすることになった背景等も知ることができて興味深かった」「私はS45入学ですが、懐かしさでいっぱいになりました!」「昔と今を知る取り組みに拍手!」などの声が寄せられており、おおむね好評を得ていました。

土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム×山口大学埋蔵文化財資料館

令和4年度連携企画展

『吉田遺跡展～地方豪族の登場と官衙成立の一例～』

令和4年3月末、さらなる地域連携と考古学情報の公開、研究の深化を目的として、下関市豊北町に所在する土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム(以下「ミュージアム」)と連携協力協定を締結しました。現在ミュージアムの館長を務めている松下孝幸氏は本学の卒業生であり、出土人骨の鑑定でいつもお世話になっている方です。前述した本学文化会考古学部のO.B.でもあり、O.B.O.G.会の代表も務められています。

連携協定締結後の最初の事業は、吉田キャンパスから遠く離れた下関市豊北町(およそ70kmの隔たりがあります)にて吉田遺跡の発掘調査最新成果を展示するという内容に決定しました。

本学の吉田キャンパス統合移転時に発見された吉田遺跡は、当初弥生時代から古墳時代の集落遺跡として注目を集めていましたが、近年の調査では古代官衙(かんが:古代の役所のこと)に関連する遺構や遺物が多数発見されていることから、官衙遺跡として注目されています。

令和4年9月6日(火)から11月27日(日)の会期で開催した展示では、古墳時代の吉田遺跡の状況から官衙成立への背景を考察し、その根拠となる各種資料を多数公開しました(写真10・11)。遠方での展示の準備には多少の困難も伴いましたが、ミュージアムの学芸員の方々の協力により、内容の濃い展示を構築することができました。展示室が広いって素敵なことです。会期中、3,990名の方々に観覧いただきました。ミュージアム、さすがの集客力です。

これから連携事業がどのような展開を見せるのか、ご注目いただけると幸いです。私自身、とても楽しみにしています。

山口大学学術資産継承事業成果展 第9回『宝山の一角』

毎年恒例となっている山口大学学術資産継承事業委員会の事業成果展『宝山の一角』を、令和5年3月22日(水)から6月16日(金)の会期で当館展示室にて開催します。

今回公開する資料は、考古資料(当館)、美術資料(教育学部)、商品資料(経済学部)、鉱物岩石資料(理学部)、文書資料(経済学部)で、当館は保存処理を終えた古代の木製品を展出します。

本稿執筆時点(3月3日(金))でまだ展示の構築を行えていないことから、展示模様を写真で紹介することはできませんが、本学が誇る貴重な学術資料で展示室が賑わう予定となっています。また、会期中の5月18日(木)は「国際博物館の日」です。当日来館者にはプレゼントを用意する予定です。ぜひ一度足をお運びいただきますようお願いします。

(横山成己)



写真8 山口県大学ML連携特別展
展示の模様①
10月30日撮影



写真9 山口県大学ML連携特別展
展示の模様②
10月30日撮影



写真10 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムでの
展示の模様①
9月5日撮影



写真11 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムでの
展示の模様②
9月5日撮影

地域連携トピックス 講座「古代ウォーク」

山口県西部、山陽小野田市厚狭地区の遺跡めぐり

「古代ウォーク」は、山口県立山口博物館との連携で平成27年度から開始した講座で、令和4年度で8回目を迎えました。山口県内を東部、東部、北部、西部に分け、順次講座を開催しています。

今年度は、県西部の順番となることから、11月12日(土)に山陽小野田市厚狭地区で開催することになりました。

厚狭地区は、周囲を山に囲まれた小さな盆地となっており、古代より交通の要衝として重要視されてきた場所です。その一方で、丘陵地に古墳や経塚などが分布しているものの、盆地床の遺跡の様相は解明されぬまま現在に至っています。

開催するにあたり、コースの検討や下見を行い、地元の教育委員会に支援をいただきながら準備を進め、当日を迎えました。今回の参加者は13名。スケジュールは以下の通りです。

①13時00分～13時40分 遺跡の解説と出土資料の見学（写真28）
(於：山陽小野田市厚狭地域交流センター・山陽小野田市立厚狭図書館)

今回は「安全に訪問できる遺跡のみ見学すべき」との意見が出されたことから（※過去に事故が発生したことではないのですが…）、地区の主要遺跡への訪問を断念せざるを得なくなつたため、見学しない遺跡も含めて詳しく事前解説を行いました。厚狭地区の主要な出土品は、地域交流センターと同一建物内にある厚狭図書館に展示されているため、あわせて見学も行い、遺跡地に向け出発しました。

②13時45分～14時05分 徒歩で移動（1.7km）

③14時05分～14時25分 休憩・杳古墳見学（写真29）

杳古墳は盆地の北東部、厚狭川右岸にある古墳時代後期後半の横穴式石室墳で、平成6年（1994）に発掘調査が実施され、現在の位置に移築されました。当墳については、調査を実施した組織の年報や山口県史、自治体資料などを調べても、古墳の原位置が分かりませんでした。良い機会なので地元の方々に尋ねてみましたが、残念なことに誰も知らず…。発掘調査からわずか30年弱。遺跡情報を適切に取り扱わないと、このような状態に陥るんですね。自戒も含め色々と考えさせられました。

⑤14時25分～15時10分 徒歩で移動（3.0km）

⑥15時10分～14時00分 妙徳寺山古墳見学（写真30）

国道2号線厚狭バイパス建設に伴い発見された古墳時代中期前半の全長約30mの前方後円墳で、盆地の南端、標高35～40mの丘陵傾斜地に立地します。平成2年（1990）に発掘調査が行われ、後円部の中央に未盗掘の石棺系竪穴式石室が検出されました。石室内からは銅鏡1枚と多数の玉類などが出土しており、1.5km西方に位置する長光寺山古墳に続く当地域の首長墓と推定されています。バイパス建設のため、古墳自体は東に約40mほど移築して保存されています。

⑦15時30分～16時00分 徒歩で移動（2.2km）

⑧16時00分～ 山陽小野田市厚狭地域交流センター・解散

全長約7kmのコースを歩ききり、無事ゴールにたどり着きました。参加者からは、「厚狭に住んでいて日頃目にしていた古墳のことを色々知ることができて楽しかったです」という声のほか、「長光寺山古墳も訪れてみたかったです」という声が寄せられました。それでは行こうじゃないですか！今すぐにっ！！

⑨16時25分～16時45分 長光寺山古墳見学（写真31）

ここからは講座終了後の当館単独行動。3年前から参加してくれている古墳愛好家さんとともに、長光寺山古墳を電撃訪問。厚狭盆地に突如出現する古墳時代前期後半の前方後円墳（全長約60m）です。日も傾きつつありましたが、後円部墳頂に保存されている竪穴式石室を眺めながら、やはり実際に遺跡地に行かなければ解決しない疑問もあるし、新たな疑問も生じない、と再認識することになりました。（横山成己）



写真28 厚狭地域交流センターでの遺跡解説
11月12日撮影



写真29 杳古墳見学・解説
11月12日撮影



写真30 妙徳寺山古墳見学・解説
11月12日撮影



写真31 講座終了後、長光寺山古墳を電撃訪問
11月12日撮影

資料館この一品 vol.27 箕倉古墳出土の足鍋

中世の山口県に特徴的なもののひとつに足鍋（あしなべ）と呼ばれる土器があります。足鍋とは三脚がついた煮炊用の土器で、基本的には黒色に近い器表と灰白色でやや粗い器壁をした瓦質土器という土器として作られています。

足鍋は、瀬戸内海中・西部沿岸を中心に北九州方面まで分布しており、特に山口県で多く出土していることが分かっています。13世紀後半から足鍋は防府地域で散発的に見られるようになりますが、定型化・規格化された足鍋が登場するのは14世紀中頃になります。14世紀の中頃から15世紀には防府・山口地域を中心に瀬戸内海沿いの地域、さらに福岡県にまで広がり、16世紀になると再び分布圏が防府・山口地域にまで縮小して衰退していきます。

箕倉古墳出土の足鍋

当館では、山口市秋穂に所在する箕倉（はずくら）古墳の出土品として足鍋を所蔵しています。箕倉古墳は古墳時代終末の横穴式石室ですが、後世の攪乱を受けていて封土上部はほぼ損失しており、石室も基底部の一部以外は破壊されていました。石室の埋積土から瓦質土器の足鍋が出土していることから、室町時代以降に作業小屋等に再利用されていたと思われます。

足鍋はその形態上、脚部が折れやすく、底部付近の器壁も薄く破損もしやすいため、完存する資料は多くありません。そのようななかで当館所蔵品は欠失部分があるものの、ほぼ完形に復元されもので、全形が確認できる資料です。足鍋の製作技法は、丁寧なつくりのものから生産効率を意識したものへと変化していきます。変遷は主として口縁部の形態変化を基準として考えられており、それによると当資料は16世紀後半に位置付けられます。

足鍋と大内氏

山口県の中世の歴史について語るときに大内氏は外せない存在といえますが、その大内氏と足鍋について関連が指摘されています。

防府市の『兄部家文書』に商品名として「足鍋」が登場しています。兄部家（こうべけ）とは、室町時代から江戸時代にかけて大内氏・毛利氏から周防合物座の長職に任じられた豪商です。『兄部家文書』応永11年（1404）に大内氏から「売物進退事」についての権限の確認を受ける内容の記述があり、その主要売物6品目の中のひとつとして足鍋が登場しています。大内氏が裁許する商品リストに足鍋が入っていることから、その流通に兄部家に加えて大内氏が関与していたことが読み取れます。

足鍋が最も波及する15世紀は大内氏の領国統治が安定して博多に進出するころにあたり、16世紀に入って大内氏が衰退・滅亡する時期と同じくして、足鍋の生産も衰退していきます。足鍋の展開に大内氏の盛衰が重なり、その生産と流通に大内氏の働きかけがあったと考えられています。考古資料である足鍋と文献史料との重なりで山口県の歴史がより詳しくみえてきます。
(水久保祥子)

参考文献

- 岩崎仁志 1999 「足鍋再考」『陶埴』第12号（財）山口県埋蔵文化財センター
岩崎仁志 2018 「防長型足鍋の成立と展開－防長型瓦質土器の再検討（2）－」『山口考古』第38号 山口考古学会
岩崎仁志 2022 「防長地域の土製煮炊具と大内氏」『陶埴』第35号（公財）山口県埋蔵文化財センター
鋤柄俊夫 1997 「中世食器の地域性」『国立歴史民俗博物館研究年報』第71集 国立歴史民俗博物館
横山成己 2015 「山口市秋穂箕倉古墳の出土遺物」『山口大学埋蔵文化財資料館年報－平成23年度－』山口大学埋蔵文化財資料館

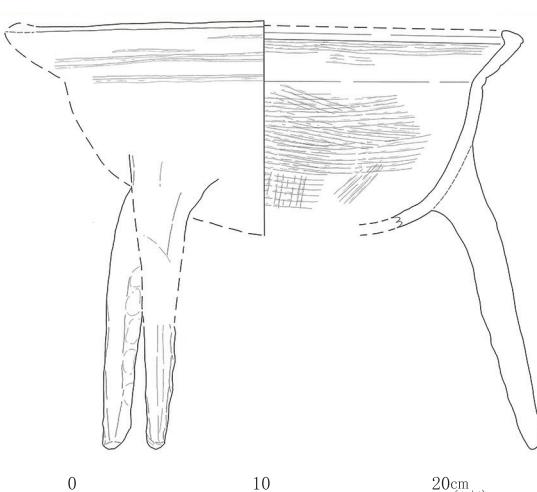


図2 箕倉古墳出土足鍋実測図
(横山 2015 より転載)



令和4年度 埋蔵文化財資料館の活動

4月 3/22(火)～7/15(金) 第8回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』
入館者数 375名

4/25(月)・27(水) 吉田構内特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査

5月 5/2(月) 教育学部歴史コース新入生展示団体見学 ※11名2班に分けて受け入れ
5/9(月)・20(金)・27(金) 吉田構内特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査
5/13(金) 山口県博物館協会総会(於:山口県立図書館レクチャールーム)

6月 6/17(金) 吉田構内特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査

7月 7/19(火) 理学部学生(7名)博物館実務実習
7/20(水)～8/5(金) 吉田構内特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査
7/26(火) 理学部学生(6名)博物館実務実習
7/29(金) 山口県市町埋蔵文化財連絡協議会役員会(於:下関市立考古博物館)

8月 8/6(土)～10/14(金) 第44回企画展
『美濃ヶ浜遺跡～古代の製塩と祭祀～』開催 入館者数 181名

8/6(土)・7日(日) オープンキャンパス(吉田)に伴う臨時開館
8/30(火)・31(水) 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム展示設営作業

9月 9/2(金)・5(月) 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム展示設営作業
9/6(火)～11/27(日)
土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム×山口大学埋蔵文化財資料館
連携企画展『吉田遺跡展～地方豪族の登場と官衙成立の一例～』開催
入館者数 3,990名

9/15(木) 常盤構内ライフライン再生(給排水設備)工事に伴う立会調査
9/30(月)～10/18(火)

吉田構内附属農場フィルムハウス設置に伴う造成工事に伴う予備発掘調査

10月 10/6(木) 山口県市町埋蔵文化財連絡協議会総会(於:下関市立考古博物館)
10/27(木) 山口県博物館協会研修会(於:長門市)
10/31(月)～1/31(火)
令和4年度山口県大学ML連携特別展
『山口大学追想録～遺跡写真に見る昔と今～』 入館者総数 170名

11月 11/4(金) 吉田構内守衛所周辺電気配線盛替え工事に伴う立会調査
吉田構内特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査
11/8(火) 吉田構内農学部授業(生物資源環境科学基礎実験)に伴う立会調査
11/12(土) 山口県立山口博物館との連携事業
「古代ウォーク(山陽小野田市厚狭)」開催 参加者 13名
11/15(火)・21(月) 吉田構内特別支援学校校舎改修工事に伴う立会調査
11/28(月)・29(火) 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム展示撤収作業
11/30(水) 常盤構内ライフライン再生(給排水設備)工事に伴う立会調査

12月 12/2(金)～6(火) 常盤構内ライフライン再生(給排水設備)工事に伴う立会調査

1月 1/27(金) 吉田構内附属農場太陽光発電システム設置に伴う
電線埋設工事に伴う立会調査

2月 2/8(水)～2/28(火) 吉田構内学生会館増築工事に伴う予備発掘調査

3月 3/22(水)～6/16(金) 第9回山口大学学術資産継承事業成果展『宝山の一角』



写真33「古代ウォーク(山陽小野田市)」
下見風景
6月10日撮影



写真34 第44回企画展
『美濃ヶ浜遺跡～古代の製塩と祭祀～』
ポスター素材撮影風景
6月17日撮影



写真35 土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム
『吉田遺跡展～地方豪族の登場と官衙成立の一例～』
設営風景
9月2日撮影



写真36(吉田) 附属農場フィルムハウス設置に伴う
造成工事に伴う予備発掘調査風景
10月12日撮影

山口大学埋蔵文化財資料館通信

第33号

『てらこや埋文』2023春号

編集・発行

山口大学埋蔵文化財資料館

〒753-8511 山口県山口市吉田 1677-1

【Tel】083-933-5035

【E-mail】yuam@yamaguchi-u.ac.jp

【HP】http://yuam.oai.yamaguchi-u.ac.jp

発行年月日 2023.3.31.